情報通信審議会　情報通信技術分科会　ITU 部会

地上業務委員会（第 49 回）　議事概要（案）

１　日　　時　平成 30 年 8 月 8 日（水）14:00～15:00

２　場　　所　合同庁舎 2 号館　総務省 8 階　第 1 特別会議室

３　出　席　者（敬称略、順不同）

［委員・専門委員］

三瓶　政一（主査）、足立　朋子、飯塚　留美、市川　武男、小川　博世、
小泉　善子、阪田　史郎、田北　順二、橋本　明、松永　彰

［関係者］

今田（KDDI）、新（NTT ドコモ）、横山（スカパーJSAT）

［事務局］

（移動通信課新世代移動通信システム推進室）中里、西室、有村、三宅

４　配　付　資　料

資料地－49－1　地上業務員会（第 48 回）議事要旨（案）
資料地－49－2　ITU-R SG5 TG5/1 第 5 回会合報告書（案）
資料地－49－3　ITU-R SG5 TG5/1 第 6 回会合への日本寄与文書（案）
資料地－49－4　ITU-R SG5 TG5/1 第 6 回会合への対処方針（案）

参考資料 1　　ITU-R SG5 TG5/1 第 6 回会合の開催案内
参考資料 2　　ITU-R SG5 TG5/1 第 6 回会合の日本代表団一覧
参考資料 3　　地上業務委員会構成員名簿

５　議　事　概　要

（１）　地上業務委員会（第 48 回）議事要旨について

【資料地-49-1】

地上業務委員会（第 48 回）の議事要旨について、事務局から説明があった。

（２）　ITU-R SG5 TG5/1 第 5 回会合の報告について

【資料地-49-2】

事務局から、ITU-R SG5 TG5/1 第 5 回会合について報告があった。

（３）　ITU-R SG5 TG5/1 第 6 回会合への日本寄与文書（案）について

【資料地-49-3-1】

NTT ドコモ新氏から､｢40GHz 帯の共用検討結果のまとめと分析への修正提案｣について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員　各論については変更せず要約のみ文章を見直すということだが、それで問題はないか。

新　　氏　40GHz帯に関連する文書についての議論はまとまりつつあるため、今回は表面的な修正のみで合意に至れるものと考えている。

【資料地-49-3-2】

KDDI 今田氏から、「24.65-25.25 GHz および 27-27.5GHz 帯における固定衛星業務（地球から宇宙）と IMT システムとのさらなる共用検討」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員　要約の見直しは必要ないか。

今　田　氏　サマリー部分に[]で括られた箇所があるので、現地では議論が必要。

橋本構成員　文書としては本寄与文書案を提出し、反映状況次第でサマリー部分についても対応を考えることと承知した。

小川構成員　寄与文書中のパラメータについて、5%となっている箇所を0%としている提案はTG5/1では存在しないのか。

今　田　氏　5%ではない提案も存在した。WP5Dにおいて基準値として5%という値が示されているので、今回はそれに従っている。

【資料地-49-3-3】

スカパーJSAT 横山氏および NTT ドコモ新氏から､｢WRC-19 議題 1.13 の CPM テキスト案に向けた作業文書への修正提案｣について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員　決議750に関して、強制値を記載するTable1-1と努力目標を記載するTable1-2の振り分けについては､受動業務側とある程度合意が得られているのか。

新　　氏　テーブル毎の振り分けについては、概ね合意がなされている。Table1-2に36-37GHz帯が入っているが、受動業務側を主導するフランスが自ら強制値としては不要との見解を出しており、問題ない。

橋本構成員　数値については全く未定なのか、いつ頃どのように決めていくとの考えなのか。

新　　氏　今回のTG5/1ではおそらく結論は出されない。少なくとも一つの値に議論が収束することはなく､議論はCPM-2あるいはWRC-19まで

続くであろう。

橋本構成員　周波数帯毎にどのような数値が出てくるかによって対応を決めていくものと理解した。

新　　氏　WRC議題1.13における検討周波数のうち、EESS-passiveにかかわる値を列記しているが、全てがIMT特定される可能性は極めて低い。可能性の高い26GHz帯、40GHz帯のみ決められれば良いと考えている。

橋本構成員　各国の提案数値を検討した上で日本の対応を決めてもらいたい。

小川構成員　81-86GHzの項目を計算しているが、これは日本として提案しているという理解でよろしいか。

新　　氏　日本として提案しているが、現在はITU-R studyの段階であり、studyの結果をどのように要約するかといった部分である。WRCの対処はどうするかというのはWRCの対策会内で行うべきである。

（４）　ITU-R SG5 TG5/1 第 6 回会合への対処方針案について

【資料地-49-4】

事務局から、ITU-R SG5 TG5/1 第 6 回会合への対処方針（案）について説明が行われ、承認された。

（５）　その他

事務局より参考資料の説明があった。

本日の審議を経て、修正の必要がある寄与文書については、近日中に事務局に提出することになった。

また、承認された寄与文書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。

外国寄与文書の対応については、日本代表団を中心に外国寄与文書審議表を作成し、対処に用いることとする旨説明があり、承認された。

以上